

ふれんど

2019
第44号

【ひろがれ、かसानね、むさしののわ】



特集

障害者雇用 最前線

「ジョブアシストいんくるの
就労定着支援事業」

●トピックス

小学校の茶道クラブ発表会

●食を通じて地域とつながる

思いをかたちに

●たて糸よこ糸

Precious Net (プレシャスネット)

●えすぷれつそ

特別養護老人ホームゆとりえ

小野 早紀子

ワークステイジりぷる

小野 裕

●福々刻々

「生涯学習社会」へ



障害者雇用 最前線

特集

ジョブアシストいんくるでは平成25年の開設以来、就職を目指す障害のある方を支え、一般企業への就労を実現し、継続するための支援を行ってきました。現在、障害者の法定雇用率が引き上げられ、一般就労に移行する方が増加している中で、障害のある方が安定して長く仕事を続けられるような支援のニーズが高まっています。

そういった状況の中、平成30年度より「就労定着支援事業」という、障害のある方が企業に就職した後でできるだけ長く仕事を続けられるように様々なサポートを行う「障害者総合支援法」に基づく新しいサービスが施行され、昨年10月からいんくるでも利用できるようになりました。具体的には、定期的な個別面談や職場訪問を行い、仕事を続けていくうえで必要な各種相談を受け付け、それに応じて、様々な機関と連携しながらサポートするといったものです。また、仕事のスキルアップやプライベートの充実なども個別にご相談に応じることができます。

就職後も、継続して定着支援を同じ事業所から受けられることで、相談しやすく、就職当初からしっかりしたサポートが行えることが期待されます。充実したプログラムで、長く働き続けられるよう就労・生活面をトータルサポートいたします。

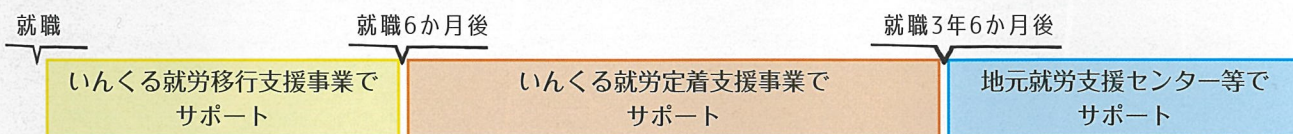
—ジョブアシストいんくるの就労定着支援事業—

■ サービスを利用できる方

ジョブアシストいんくるの就労移行支援サービスを利用して就職された方。

■ サービス提供時間

就職6か月後から起算して3年間（下図参照）。



■ サービス内容

会社訪問

仕事に関する悩みや課題などについて個別に相談に応じます。職場の方との調整も行い、仕事に力が発揮できるようサポートします。

専門機関との連携

個々のケースに応じて障害福祉サービス事業者、就労支援センター、医療機関等と連携し、就業生活を支えるための支援を行います。

スキルアップのサポート

希望者は、いんくるのビジネススキルアップ講習・パソコン講習などの各種研修を受講できます。

生活相談

家庭のこと、生活リズムや体調管理、お金の使い方など様々な生活面の相談にのります。

■ いんくるの就労定着支援事業のメリット

- ①サポートを続けてきた支援機関が就職後も引き続き対応するので、相談しやすく、就労当初からしっかりしたサポートが行えます。
- ②充実したプログラムで、長く働き続けられるよう就労・生活面をトータルサポートできます。



パソコン講座でスキルアップを目指します



過去にはメイクアップ講座も企画しました

就労定着支援サービス

ご利用者に
インタビュー



株式会社ベネッセスタイルケア
くらし中村橋 生活支援スタッフ

齋藤 真矢さん

— 齋藤さんは就職してどのくらい経ちますか？

2017年2月に入社しました。3年目に入りました。

— 就職する前、いんくるではどのような活動をしていましたか？

ビジネスマナーやパソコンの講座を受けたたり、ワークセンターけやきの軽作業実習に参加したりしました。郵便物の封入やレコードの梱包などです。武蔵野市役所にあるさくらごはんで食器洗浄の実習もやりました。

— 現在の仕事内容を教えてください。老人ホームのご入居者様のお部屋で水まわりの掃除をしています。具体的に

は、洗面ボウルや鏡、トイレの清掃です。ご入居者様から話しかけられたら、できる範囲でお話することもあります。

— 就職後、いんくるで受けたサポート内容と、「これは助かったな」と思うことがあったら教えてください。

電話相談で話を聞いてもらっているのと、今は月一回職場訪問に来てくれます。ストレスでモヤモヤすることがあるのですが、電話や面談で相談にのってくれるので、助かっています。

— 就職後、自分で「変わったな」と思うことがあったら教えてください。

ご入居者様とのコミュニケーションが就職したばかりの頃よりはうまく取れるようになったかなと感じています。突然のハプニングにもなんとかが対処できるよつになってきました。

— 今後チャレンジしてみたいことはありますか？

貯金をしたいです。

職場の方へ
インタビュー

株式会社ベネッセスタイルケア
くらし中村橋 ホーム長

小平 勲さん

— 齋藤さんの職場での様子について教えてください。

生真面目な性格もあり、トイレ清掃、洗面所の清掃と一生懸命、もれなく行ってくれています。最近では床掃除もお仕事の中に入り、お部屋の環境美化に貢献していただき、ご入居者様からも「ありがとう」と感謝の声をちょうだいしています。

— いんくるのサポートがあつてよか

ったと思われたことがあればお聞かせください。

毎月、定期的な訪問があり、本人の様子をみていただけるので大変助かっています。一人で行う仕事のため、孤独な面もあり、スタッフやホームにはなかなか言えないことを聞いていただいております。

— 今後このようなサポートがあればよいと思うことや、サービスに期待することがあればお聞かせください。

障害者支援の方々集まりや交流などを、もっと増やしていただけたらいいです。

支援者から

入社当初は仕事に慣れることに加え、職場環境に慣れることも必要でした。また、職場の方々に齋藤さんのことを知っていただく必要もあると感じ、齋藤さん、職場の方々と相談して、東京障害者職業センターと連携し、ジョブコーチ支援を導入しました。仕事のやり方や職場での振舞い方のポイントを伝えたり、必要に応じて齋藤さんのことを職場の方々に伝えたりしながら、スムーズ

に仕事ができるようサポートしました。その後も、一緒に通院して主治医に職場での様子を伝えて助言をもらったり、職場でのサポートに役立つと情報交換したりなど、サポート内容は多岐に渡ります。職業生活を支えるためには就労だけでなく、生活全般のサポートが必要になることを痛感しています。(ジョブアシストいんくる 後藤耕士)

障害者雇用の状況と定着支援の役割

企業にはその規模に応じて一定以上の割合で障害のある方を雇用することが「障害者雇用促進法^{※1}」で義務付けられています。現在その割合は民間企業で全従業員の2・2%、官公庁は2・5%と定められています。

これは大企業にとっては、コンプライアンスの観点からもしっかり取り組まなければならないことと認識され、多くの企業が積極的に障害者雇用に取り組んでいます。

また、平成28年4月の改正により、この法律のなかで障害者への差別禁止^{※2}と合理的配慮^{※3}の提供義務^{※3}が企業に課されることとなりました。

こうした法整備もあり、障害者雇用は活況を呈していますがその一方で、離職者の増加が大きな課題となっています。

特に就職直後の離職についてはよく指摘されますが、実のところは、就職直後に限らず、キャリアを重ねるなかで支援が必要とされる局面が継続的に現れてきます。例えば仕事の面では、上司の異動、後輩の配属など職場環境は常に変化していきます。また、加齢等による自らの体力、気力の変化もあります。生活面でも結婚や出産、親の高齢化などライフステージに沿って様々な支援が必要とされることも少なくありません。いんくる就職者の定着率の6か月から3年にかけての推移

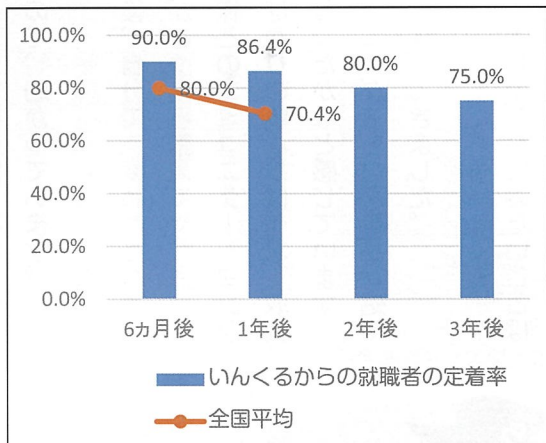


図 障害者雇用の職場定着率
いんくるから就職後の6か月の定着率は90%と高い水準にあります。しかし、時間が経過するにつれ離職も増え、3年後には75%になります。全国平均では6か経過80%、1年経過70.4%となっています。(全国平均値の出典：「障害者の就業状況等に関する調査研究」2017年 JEEDより)

(図)をみても、就業生活のあらゆる過程において常に離職に至る可能性をはらんでいると言えます。

このように就業生活の継続のためには複合的な課題への対応が必要になります。しかも、こうした支援は「定着支援事業」の利用年限である3年で最終するものではありません。直面する課題に対処しつつ、ナチュラルサポートの醸成を意識して職場や家族、地域の中で本人をささえる仕組みを構築していく、生活者としてのご本人の先を見据えた支援の組み立てが「定着支援事業」に求められています。

(ジョブアシストいんくる施設長 鈴木誠)

- ※1障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律（平成28年4月1日施行）
- ※2障害者に対する差別の禁止：雇用の分野における障害を理由とする差別的取扱いを禁止する（障害者雇用促進法第34～35条）
- ※3障害者に対する合理的配慮：事業主に、障害者が職場で働くに当たった支障を改善するための措置を講ずることを義務付ける。ただし、当該措置が事業主に対して過重な負担を及ぼすこととなる場合を除く（障害者雇用促進法第36条の2～36条の4）

いんくるの就労定着支援事業

「就労定着支援事業」とは、障害を持つ方が企業に就職した後できるだけ長く仕事を続けられるように、様々なサポートを行う昨年からはまった新しいサービスです。具体的には定期的な個別面談や職場訪問を行い、仕事を続けていくうえで必要な各種相談を受け付けます。そして、必要に応じて、様々な機関と連携しながらサポートいたします。また、仕事のスキルアップやプライベートの充実なども個別にご相談に乗ります。



企業就労について、後輩の前で発表。伝える力が問われます

☎ご利用をお考えの方は、いんくるまでご相談ください。

ジョブアシストいんくる

〒180-0006

東京都武蔵野市中町 1-28-10

電話：0422-50-1701

Mail：incl@fuku-musashino.or.jp

→地図
P.8-A

opics
●トピックス

小学校の
茶道クラブ発表会

桜堤ケアハウスのすぐ近くにある桜野小学校の茶道クラブの発表会がケアハウスのロビーで行われました。子どもたちがご利用者一人ひとりに丁寧にお茶を点てくださり、その後、一緒にお茶をいただきました。

茶道経験のあるご利用者からは「とても懐かしいわ」という声が上がりましたが、ほかにも参加された方々は、声をそろえて「おいしい」と喜んでお茶を飲まれました。子どもたちも、頑張っ



茶道を習っていた頃の思い出話で盛りあがります



緊張しながらも上手にお茶を点てる子ども

てたお茶を褒めてもらえて「嬉しかった」と話していました。

初めはお互い緊張していましたが、お茶を通してご利用者と子どもたちの会話が弾んで、最後には笑顔あふれる会となりました。こうしたお点前を発表する場があると、クラブの活動にも活気が出てくるそうです。ケアハウスとしても、入居者が昔のことを思い出すきっかけになるだけでなく、子どもたちにケアハウスの存在を知ってもらえるよい機会になるので、今後も定期的に開催していきたいと考えています。

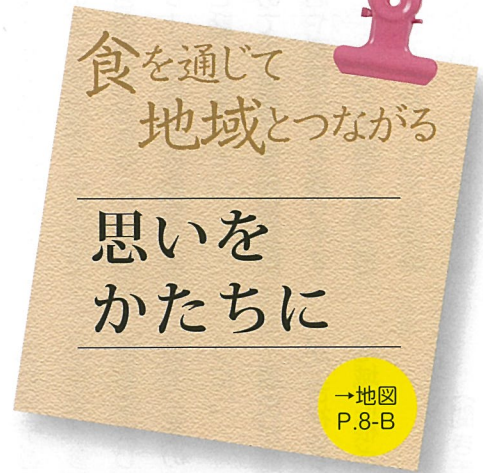
(武蔵野市桜堤ケアハウス

間部静夏)



クッキーの型抜き作業に真剣に取り組むご利用者

「天然酵母のパンと手作りカレーの店 パールブーケ」(障害者総合センター一階)では、入学式、卒業式シーズンを控え、地域の皆様からお祝い用の焼



き菓子のご注文がたくさん入る繁忙期となりました。季節メニューの販売は、商品の成り立ちやお客様の気持ちに思いを馳せながら、調理に向かうよい機会でもあります。おすすめ商品は「3匹のくまクッキー」。見た目も楽しく、もらって嬉しいクッキーを目指した商品だけに、型抜きの作業がとても重要です。「卒業祝いのラスクです」「入園を祝う会で使うクッキーです」と用途を伝えられたご利用者は、いつも以上に手先に集中している様子でした。焼き菓子のご注文は一年を通して承っております。お問合せお待ちしております。

(ワークセンターけやき

西村真代)



さくらを手にした「3匹のくまクッキー」



運営スタッフの方々。
右から3番目がお話を伺った、齋藤さん

お母さんの活躍を応援する団体「Precious Net」プレシャスネットを立ち上げた齋藤理恵子さんは、創設時の想いをこう話します。「私自身、産後に社会と突然切り離されたような孤独感がありました。ママが短時間でもリフレッシュする場や機会が増えれば、子育てをもっと楽しめるはず」。

よりよい地域づくりを
めざして活動している
団体等を紹介しています。

たて糸 よこ糸

特定非営利活動法人
プレシャスネット
Precious Net

- 理念：子育てを楽しみつつ、女性として輝くママを増やし、子どもにとってよりよい未来を作る
- 設立：2008年10月（2015年10月にNPO法人化）
- 理事長：齋藤理恵子
- 会員：約4000名
- 運営ママスタッフ：30名

● 問い合わせ先：
▶メール
preciousnet.kichijoji@gmail.com
▶ブログ
http://ameblo.jp/precious-net/

2008年に親しいママ友達とスタートさせたPrecious Netは、親子で楽しめるイベントやママのための講座など多様な企画を展開。なかでも、「吉祥寺ハロウィンフェスタ」は、0歳から小6までの親子約5000人が集い、メディアにも多数取り上げられるほどの秋の一大イベントに成長しています。

このイベントには、みどりのこども館 余暇支援サービス「つばさ」に集う、車椅子で生活をしているお母さんたちも参加しています。参加のきっかけは、「車椅子のお子さんも参加して頂くにはどうしたらいいか」という齋藤さんからの問い合わせでした。問い合わせの動機について「娘の通う小学校での特別支援学級との交流を目的にしたり、こういった『環境や心のバリアフリー』が地域にももっとあったらいいなと思った」と話します。

そして、2017年、初めての車椅子優先枠が設けられました。段差のない店や車椅子でも通りやすい道を入念に調べたコース設定などが特徴です。「現在、車椅子優先枠の利用は13名ですが、いずれは障害児優先枠として100名くらいに」という目標の



親子で楽しく、安心して参加できると大好評。
ハロウィンフェスタの様子

一方で、「多様性を自然に受け入れ、楽しめる雰囲気地域に根づくこと」を大事にしたいと話します。ご自身の子育てとPrecious Netの今後を重ね合わせ、最後にこんな展望を聞かせてくれました。

「母親の人生はステージごとに、仕事や子ども、それぞれへ注ぐエネルギーに強弱が出てきます。その強弱のダイヤルを臨機応変に回せるようにしたいですね。子どもの成長に伴いスタッフの代替わりもあります。参加者のニーズに合わせたイベントを、今後も工夫します。親子で過ごせる時期は案外と短いので、その貴重な時間を、ママがより、楽しめるように」。

遠出が難しい小さなお子さんを持つお母さん達が、吉祥寺とその周辺で充実の子育てができるよう、地域に根ざした活動をこれからも期待したいです。

（聞き手） こども発達支援室ウィズ 小山和子

元気の源

特別養護老人ホームゆとりえ

小野 早紀子

→地図
P.8-C

大学を卒業して昨年4月、当法人に入職し、初めての配属先がゆとりえ特養でした。希望は別の現場でしたので、落胆と戸惑いがあり、最初の数か月は不安と緊張の毎日でした。少しずつ不安が減っていったのは、先輩職員の支えと、ご利用者から元気をいただいた



雑誌を読みながら

ことが大きかったと思います。

ある日介護でうまくいかないことがあり落ちこんでいると、いつもは自席から手を振ってくださる方が、私を手招きして呼びとめ、「次はいつ来るの？」と尋ねられました。「明日も来ますよ」と答えると、「あんまり無理しちゃだめよ。お姉さんが来るのを楽しみに待っているわ」と、いつものようにニコニコと手を振ってくださいました。「明日もよろしくお願いします」と返した帰り道、落ち込んでいたはずの気持ちは晴れ、「明日もがんばろう」と思ったのを覚えています。

私たちの仕事は、ご利用者一人ひとりのその人らしい幸福な生活を支えることです。私たちが「この方のために何かをしたい」と思うのと同じように、「ご利用者からは自分の存在を認めてもらって元気をいただいているのだと思います。まだまだ上手くできないことも多いですが、2年目も頑張ります。」

「あなたの言葉」を聞きたい

ワークステーションの

小野 裕

→地図
P.8-D

りづる利用中のTさんは、言葉で表現することは少ないのですが仕事に楽しさを感じているように見受けられます。彼を検査台で迎える私は、心を込めて「ありがとうございます」と言います。Tさんは反射的に「ありがとうございます」とオウム返し。少しし防御的な様子。『ありがとう』の言葉を強要しているわけではありませんよ」と、私はTさんの誤解を解きた



完成した封入物を受けとる筆者(右)

くなります。

仕事を一緒にすると、相手の「自己表現」を引き出せる機会が時々訪れます。私の姿勢はまず「待つこと」「まもること」。手助けするのは相手が何か表現、行動した後です。

かつての私は、経験が浅く「タメ」をつくれず、すぐに正解を提示してしまふ未熟な支援者でした。次の一手の繰り出しを早め「だめですよ」「いいません」「こうしましょう、それらの言葉を投げかけ相手の「したいこと」「ほしいもの」を表現する機会を奪っていたのです。けん制し、価値観を押し付け、独善的でした。ただ時間違えたおかげで、少し成長できた今日の私があります。

失敗があってもそれを肯定的にとらえ、また挑戦したいと再起できる場であることに価値をおき、仕事を通じて「したいこと」「なりたい姿」を表現できるようサポートしています。

「ありがとうございます」と私が言ったら、Tさんが自分の言葉で応じてくれる目を目指します。

福々刻々

「生涯学習社会」へ

武蔵野市第六期長期計画討議要綱(市報 平成31年2月1日)の「文化・市民生活」に、「生涯学習施策の推進」という項があり《学びを通じた人々と地域とのつながりづくり等に取り組んでいく》という一節があります。大事なことだと思えます。ある大学の先生は、大学の通信教育を受ける人がうなぎ上りに増えている、学び直し、あるいは資格取得を目指している社会人が増えていると話されました。

では、生涯学習という視点で障害のある人はどういう状況なのかを考えます。国立特別支援教育総合研究所の「生涯学習活動に関する実態調査報告書」(平成30年3月)では、学校卒業後の取り組みは低調な現状です。「本人や保護者のニーズ」の項には「障害者の日常は作業所、家庭、グループホームの中だけの生活を余儀なくされており、それ以外の交流の場が必要」で、「定期的な学習機会」、「社会的スキルに関する学習」、「障害者が主体となって参加できる事業」などを希望する意見が載っています。

一億総活躍社会というスローガンのもと、この報

告書を受けて文科省は「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」を設置し検討を重ねています(平成30年3月)。論点の中には「福祉・労働分野における関連事業を効果的に活用して『学習の視点』を持つプログラムを充実させること」があります。学校との接続の円滑化です。

市内では、地域生活支援センターびーとの当事者向け学習会(くらし体験塾、サマーセミナーなど)や市内のNPO法人など、各団体でさまざまな取り組みが続いていますが、生涯学習としては十分とは言えません。障害者の権利条約には「生涯学習の確保」(第24条)が掲げられています。「障害のある方々が夢や希望を持って活躍できる社会を形成していくことが不可欠という認識(有識者会議)」を踏まえ、この課題を福祉の側も考えたいと思います。(理事長 安藤真洋)

ミライズ☆基金

～ご寄附のお願い～

この度、社会福祉法人武蔵野では、事業の継続・充実のために基金を設立いたしました。ご高齢の方の尊厳を守りながら快適に生活していただくこと、重い障害のある方がその人らしく生活していただくことを支援するためには、多くの人手と資金が必要となります。

いただきました寄付につきましては、新たなニーズへの対応・社会貢献・地域貢献など地域福祉の充実、事業活動の持続・充実・発展、施設の新設・修繕等に活用いたします。ぜひご協力をお願いいたします。申し込み方法は下記にお問い合わせいただくか、下記HPをご覧ください。

お問い合わせ先 本部事務局 ミライズ基金担当
電話：0422-54-7666
メール：musashino@fuku-musashino.or.jp
HP：https://fuku-musashino.or.jp/cms/?p=1688

社会福祉法人武蔵野 案内図

各施設は、児童サービス、障害者サービス、高齢者サービスに色分けしています。また、A～Cは本誌に記事を掲載している施設です。



新生活は大変なことも多いですが、きっと素敵な出会いがあります。就職や進学で新しい環境にあっても、時々肩の力を抜きながら、自分らしくありたいものです。(い)